

排尿障害と射精時痛の精査中に発見された 前立腺部尿道 fibroepithelial polyp の1例

あん じき はる き こ ぼら ち あき いの うえ けい た
安 食 春 輝¹⁾ 小 原 千 明¹⁾ 井 上 圭 太¹⁾
みつ い よう ぞう あり ち なお こ ひら おか たけ お
三 井 要 造¹⁾ 有 地 直 子¹⁾ 平 岡 毅 郎¹⁾
す むら まさ ひろ ほん だ さとし やす もと ひろ あき
洲 村 正 裕¹⁾ 本 田 聡¹⁾ 安 本 博 晃¹⁾
しい な ひろ あき い がわ みき お わ だ ゆき ひろ
椎 名 浩 昭¹⁾ 井 川 幹 夫¹⁾ 和 田 幸 弘²⁾
きし ひろ ふみ
岸 浩 史²⁾

キーワード : fibroepithelial polyp, 尿道腫瘍, 射精時痛

要 旨

症例は60歳, 男性。2009年12月より排尿困難及び射精時痛を自覚し, 2010年1月に当院を受診した。超音波検査にて, 前立腺肥大症と多発膀胱結石を認めたため, 膀胱鏡検査を施行したところ, 精阜に連続する15 mm 長の尿道腫瘍を認めた。同年2月に経尿道的前立腺切除術, 膀胱碎石術および, 尿道腫瘍切除術を施行した。尿道腫瘍は組織学的に urethral fibroepithelial polyp であり, 悪性所見は認めなかった。術後排尿状態は改善し, 射精時痛も消失した。

緒 言

Fibroepithelial polyp (FEP) は主に尿管に発生する良性疾患であり, 尿道に発生することは稀である。今回われわれは, 前立腺肥大症 (BPH) と膀胱結石の精査中に, 偶然発見された前立腺部尿道 FEP の1例を経験したので, 文献的考察を加え報告する。

症 例

患者 : 60歳, 男性。
主訴 : 尿意切迫感, 排尿困難及び射精時痛。
家族歴 : 特記事項無し。
既往歴 : 50歳時, 胆石に対し胆嚢摘出術。
現病歴 : 数年前より尿意切迫感を自覚していたが, 2009年12月に症状の増悪と射精時痛が出現したため2010年1月に当院を受診した。
初診時現症 : 外陰部に異常なし。直腸診にて前立腺はくるみ大, 弾性硬で表面は平滑であった。
初診時検査所見 : 末梢血一般, 血液生化学共に異

Haruki ANJKI et al.

1) 島根大学泌尿器科 2) 大田市立病院泌尿器科
連絡先 : 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1